



# 2025年3月期 第3四半期 決算補足説明資料

2025年2月13日  
株式会社カクヤスグループ  
(証券コード：7686)

## 目次：

1. 2025年3月期 第3四半期 サマリー
2. 2025年3月期 第3四半期 決算概要
3. セグメント別業績
4. 重点施策と進捗
5. 業績予想の進捗
6. 今後実行する事業構造変革について

## APPENDIX

- 拠点数データ
- 旧売上高区分による表示

# 1. 2025年3月期 第3四半期 サマリー

## 連結業績：前年同期比、増収減益決算

- ✓ 主力の飲食店向け事業が引き続き好調に推移し、全体の成長を牽引。
- ✓ 3Qでは営業利益が上期より改善したものの、今期上期の人員増加や前年のベースアップによる人件費の増加が主要因となり、前年同期比で減益となった。

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	1Q~3Q純利益
業績	102,085	1,724	669
前年同期比	+3.5%	▲28.9%	▲46.4%

## 今後実行する事業構造改革：

- ✓ 組織再編：  
グループ全体の事業構造改革を実施し、プラットフォーム事業を推進するために各社の役割を再設定
- ✓ 他人物配達機能の融合：  
改革の第一歩として、グループ内の配達プロセスに他人物配達機能を取り込む（会社分割の実施）
- ✓ プラットフォームの効果：  
受注・配達・決済まで一連サービスを提供する販売プラットフォームを構築することで、顧客の利便性を最大化

## 2. 2025年3月期 第3四半期 決算概要 — 連結損益計算書

(単位：百万円)

	2024年3月期 1Q-3Q	2025年3月期 1Q-3Q	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	98,590	<b>102,085</b>	+3,494	+3.5%
売上総利益	22,368	<b>23,740</b>	+1,371	+6.1%
	22.7%	23.3%		
販売費及び一般管理費	19,943	<b>22,015</b>	+2,071	+10.4%
	20.2%	21.6%		
営業利益	2,424	<b>1,724</b>	▲699	▲28.9%
	2.5%	1.7%		
経常利益	2,443	<b>1,722</b>	▲721	▲29.5%
	2.5%	1.7%		
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,248	<b>669</b>	▲579	▲46.4%
	1.3%	0.7%		

<影響要因>

- 売上高は、飲食店向けが好調により増加
- 売上総利益率は、値上げやPB商品の拡売より改善
- 販売費及び一般管理費については、次のページご参照ください

## 2. 2025年3月期 第3四半期 決算概要 – 販売費及び一般管理費

(単位：百万円)

	2024年3月期 1Q-3Q	2025年3月期 1Q-3Q	前年同期比	
			増減額	増減率
人件費	11,538	<b>13,266</b>	+1,728	+15.0%
給与及び賞与、各種手当	11,248	<b>12,932</b>	+1,684	+15.0%
採用費	290	<b>334</b>	+43	+15.1%
広告・販促費	642	<b>481</b>	▲160	▲25.0%
広告宣伝費	402	<b>157</b>	▲244	▲60.8%
販売促進費	239	<b>323</b>	+84	+35.2%
その他費用	7,763	<b>8,267</b>	+503	+6.5%
業務委託費	2,076	<b>1,920</b>	▲156	▲7.5%
配送費	729	<b>656</b>	▲72	▲10.0%
減価償却費・リース料	994	<b>1,236</b>	+241	+24.3%
賃借料	2,054	<b>2,229</b>	+174	+8.5%
その他	1,907	<b>2,224</b>	+317	+16.6%
販売費及び一般管理費	19,943	<b>22,015</b>	+2,071	+10.4%

<影響要因>

- 前年10月に7%のベースアップと上期に配送能力増強のための人員の増加により人件費が増加。3Q期間では改善傾向
- 前期2QまでCM放映、今期末実施
- 配達人員の内製化により、外部委託費が減少
- 資産除去債務の積み増しにより、償却費が増加

## 2. 2025年3月期 第3四半期 決算概要 — 営業利益以下

(単位：百万円)

<影響要因>

	2024年3月期 1Q-3Q	2025年3月期 1Q-3Q	前年同期比	
			増減額	増減率
営業利益	2,424	1,724	▲699	▲28.9%
営業外収益	77	83	+6	+8.1%
営業外費用	58	85	+27	+47.7%
経常利益	2,443	1,722	▲721	▲29.5%
特別利益	1	0	+0	▲28.2%
特別損失	316	483	+167	+52.9%
税引前利益	2,128	1,239	▲889	▲41.8%
法人税等	879	570	▲309	▲35.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,248	669	▲579	▲46.4%

➤ 固定資産減損損失：  
今期478百万円計上

## 2. 2025年3月期 第3四半期 決算概要 — 連結貸借対照表

(単位：百万円)

資産の部	2024年 3月末	2024年 12月末	増減額
流動資産	21,423	<b>26,487</b>	+5,064
現金及び預金	3,175	<b>2,896</b>	▲278
売上債権	9,818	<b>12,298</b>	+2,479
商品	5,652	<b>6,963</b>	+1,310
未収入金	1,540	<b>2,895</b>	+1,354
その他	1,236	<b>1,433</b>	+197
固定資産	12,530	<b>13,349</b>	+818
有形固定資産	7,255	<b>7,790</b>	+535
無形固定資産	1,710	<b>2,257</b>	+547
投資その他の資産	3,564	<b>3,300</b>	▲264
資産合計	33,953	<b>39,836</b>	+5,882

負債の部	2024年 3月末	2024年 12月末	増減額
負債合計	29,837	<b>35,503</b>	+5,665
仕入債務	16,007	<b>21,082</b>	+5,074
有利子負債	8,618	<b>9,355</b>	+737
短期借入金	6,382	<b>6,723</b>	+340
長期借入金	2,231	<b>2,539</b>	+307
リース債務	3	<b>92</b>	+88
その他負債	5,211	<b>5,065</b>	▲146
純資産の部	4,116	<b>4,333</b>	+216
株主資本	3,969	<b>4,171</b>	+202
その他包括利益累計額	146	<b>161</b>	+14
負債・純資産合計	33,953	<b>39,836</b>	+5,882

自己資本比率： 12.1% 10.9%

- 自己資本比率：  
繁忙期である12月の影響により仕入債務が上昇。自己資本比率を引き下げる季節要因

### 3. セグメント別業績

(単位：百万円)

	2024年3月期 1Q-3Q	2025年3月期 1Q-3Q	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	98,590	<b>102,085</b>	+3,494	+3.5%
時間帯配達事業	56,436	<b>59,725</b>	+3,289	+5.8%
ルート配達事業	27,367	<b>29,072</b>	+1,705	+6.2%
店頭販売事業	12,893	<b>12,053</b>	▲840	▲6.5%
その他	1,892	<b>1,234</b>	▲658	▲34.8%
営業利益	2,424	<b>1,724</b>	▲699	▲28.9%
時間帯配達事業	1,773	<b>1,595</b>	▲177	▲10.0%
ルート配達事業	702	<b>700</b>	▲2	▲0.4%
店頭販売事業	647	<b>442</b>	▲205	▲31.7%
その他	222	<b>116</b>	▲105	▲47.5%
調整額	▲921	<b>▲1,130</b>	▲208	

<影響要因>

- 新規取引先の開拓が順調
- 飲食チェーン店向けの売上が好調
- 前期自治体が実施したキャンペーンの反動影響による売上減
- 粗利率の低い商品の売上構成比が上がるなど、前年並みに稼ぎ切ることができず
- アルバイト人員増、拠点増によるコスト先行で減益

### 3. セグメント別業績 — 時間帯配達事業

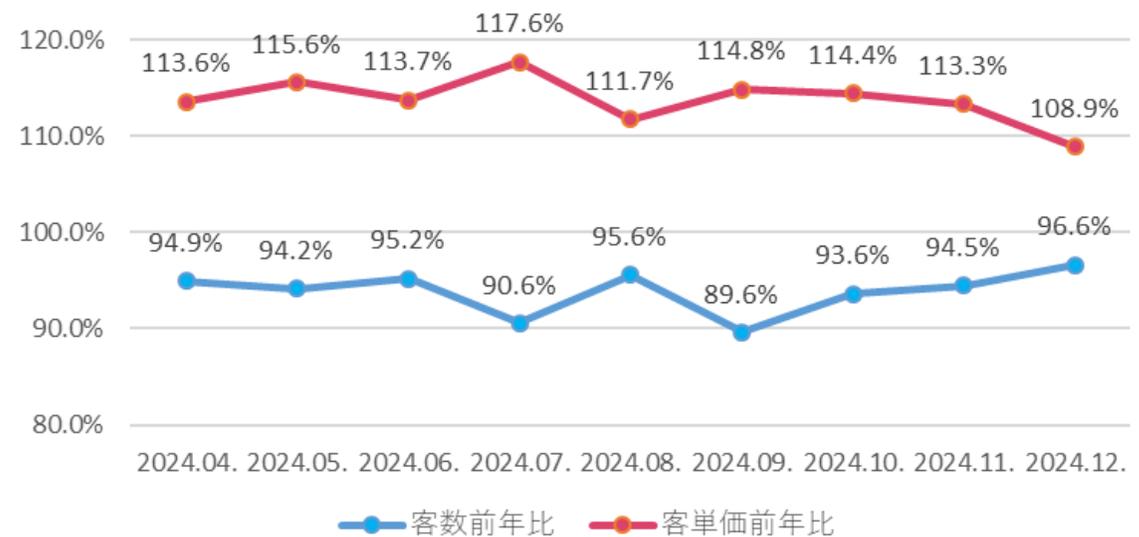
(単位：百万円)

	2024年3月期 1Q-3Q	2025年3月期 1Q-3Q	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	56,436	<b>59,725</b>	+3,289	5.8%
営業利益	1,773	<b>1,595</b>	▲177	▲10.0%
営業利益率	3.1%	<b>2.7%</b>	▲0.4%	

#### 3Qの動向：

- 客単価は、値上げの影響と個人飲食店の顧客開拓の順調な展開により、安定した成長率を維持。
- 客数は、配達人員増員に伴い配達件数が増加。特に法人向け(主にオフィス)宅配が好調。

客数・客単価 前年比推移



### 3. セグメント別業績 – ルート配達事業

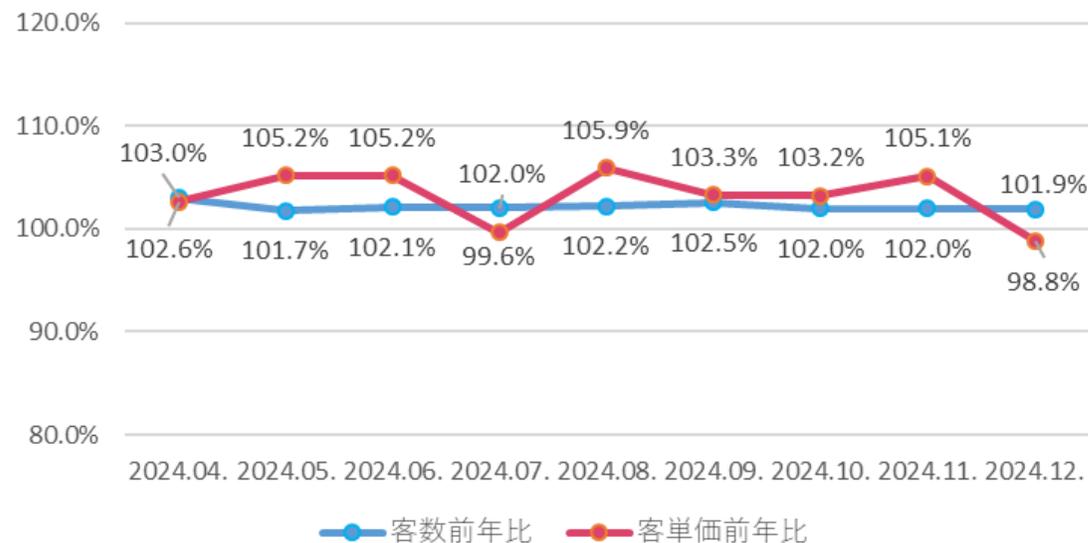
(単位：百万円)

	2024年3月期	2025年3月期	前年同期比	
	1Q-3Q	1Q-3Q	増減額	増減率
売上高	27,367	29,072	+1,705	6.2%
営業利益	702	700	▲2	▲0.4%
営業利益率	2.6%	2.4%	▲0.2%	

#### 3Qの動向：

- 客単価は10月、11月で堅調に推移したものの、12月は9連休による飲食店の営業日数が減少したことに加え、海外旅行者や帰省する人の急増、さらにインフルエンザの流行の影響もあり、成長が鈍化した。
- 飲食チェーン店の売上は順調に伸びており、取引先店舗数も安定的に推移。

客数・客単価 前年比推移



### 3. セグメント別業績 — 店頭販売事業

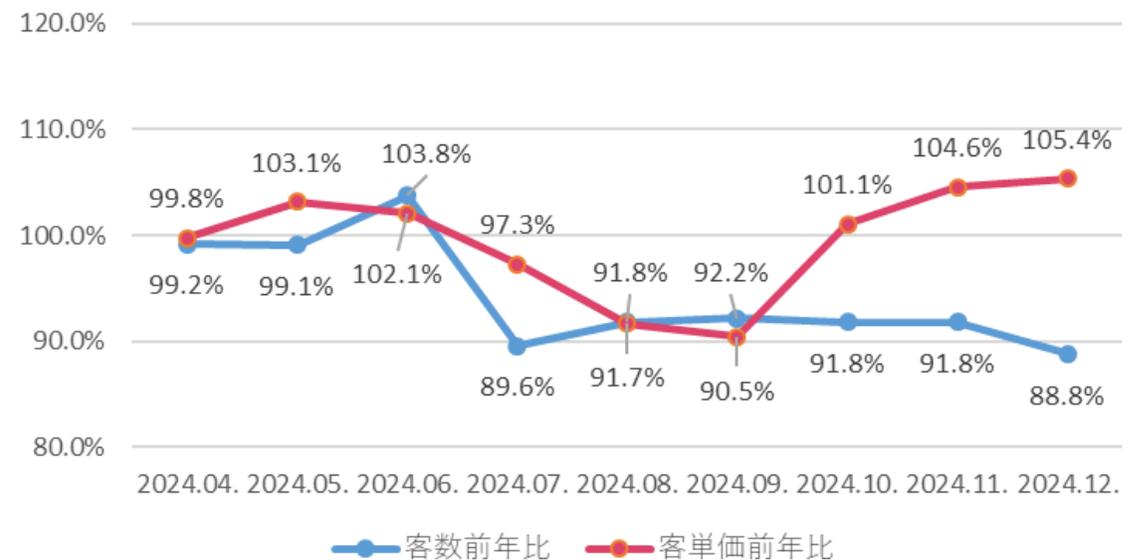
(単位：百万円)

	2024年3月期 1Q-3Q	2025年3月期 1Q-3Q	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	12,893	<b>12,053</b>	▲840	▲6.5%
営業利益	647	<b>442</b>	▲205	▲31.7%
営業利益率	5.0%	<b>3.7%</b>	▲1.3%	

#### 3Qの動向：

- 客単価は、値上げと年末年始に向けた高額洋酒の構成比上昇により、堅調に推移。
- 客数は、12月の自治体キャンペーン実施店舗が11店舗だったのに対し、前年は19店舗で実施していたため、反動影響が発生。

客数・客単価 前年比推移



## 4. 重点施策と進捗

### 物流体制強化

- ✓ 8月に買収した大和急送から、即戦力となる配達人員をフレキシブルに時間帯配達事業へ補充し、12月の稼働時間は3600時間以上、1月の稼働時間は5000時間以上となった。

### DXの推進

- ✓ AIプロジェクトの開始：自動化、非属人化、可視化  
AIを活用し、1000万回分の走行実績を分析し、自動配車アルゴリズムを開発中。複数の拠点から複数のお客様へ商品をお届けするN対Nの配送を最適化する。これにより配達員の負担軽減が期待できる新たな配送モデルの構築するプロジェクトを始動し、2025年6月に配送現場への導入を目指す。



## 4. 重点施策と進捗

### PB商品拡大

- ✓ PB商品の売上高は、前年同期比で約20%増。
- ✓ 水産系おつまみの新商品を開発。
- ✓ 品揃え：アルコール46種類、飲料23種類、食品28種類、調味料6種類、合計103種類。



12月5日発売 おつまみチョイス”シリーズ第3弾（魚介類）  
販売価格：322円～430円（税込）

### サステナビリティ



- ✓ 6月下旬より開始した廃食用油回収サービスを、11月より関西・九州エリアでも展開。回収時に、一斗缶1缶につき100円、ペットボトル一本につき3円を商品代金から値引き。PB商品の調理油とセットで提案販売し、相乗効果が生まれている。実績として、6月から1月までの累計回収量は約67トン。

## 5. 業績予想の進捗

### 業績予想の進捗について

(単位：百万円)

	第3四半期実績 (A)	通期進捗率(A/B)	通期業績予想(B)
売上高	102,085	74.6%	136,800
営業利益	1,724	57.5%	3,000
経常利益	1,722	58.4%	2,950
親会社株主に帰属する 当期純利益	669	41.8%	1,600

### 業績予想の差異について

- 最繁忙期である12月は、5年ぶりの9連休となり、飲食店の営業日数の減少が見受けられました。さらに、海外旅行者や帰省する人の急増に加え、インフルエンザの流行も影響し、首都圏の需要は予想を下回りました。
- 東京商工リサーチの調査結果によると、年末年始の忘新年会の実施割合は59.6%にとどまり、コロナ禍前の78.4%には回復していません。このことから、企業による大規模宴会の減少トレンドが現れています。
- 4月のメーカー各社の値上げを受け、3月に仮需が高まると見ており、通期業績予想は据え置きいたしました。

## 6. 今後実行する事業構造変革について

### (1) 事業構造変革後のグループ各社の基本的な役割

- 当 社 : 当社グループ全体の管理機能・M&Aを含めたグループ全体の戦略設計及び推進
- カクヤス : 酒類販売
- 明和物産 : 酒類以外の商品販売
- 大和急送 : 物流機能

### (2) 物流機能の多様化

これまでの自社の販売する商品やサービスを自社で配達する自家配達体制に加え、他社の販売する商品やサービスを当社グループで配達する他人物配送機能を活用し、さまざまな商品を、お客様の需要、必要頻度に応じてお届けする体制を構築。大和急送を当社グループの物流体制の基幹法人に位置付け、物流機能多様化の第一段階として、東京都大田区の物流センターを連結子会社間の簡易吸収分割により大和急送に移管。

### (3) 取扱い商品の拡充

従来から取り組んでおります酒類以外の商品を充実させるために、明和物産をまずは当社グループの既存顧客への商品拡大を担う軸としておき、飲食店様や一般消費者様向けの商品戦略を進める。

グループ全体では、飲食店向け、法人向け、一般消費者向け全てのお客様に対し、販売プラットフォーム企業としてサービスを提供することを前提に、取扱い商品を拡充新規商材の取扱い強化のためのM&Aにも積極的に取り組む。

# APPENDIX

---

# 拠点数データ

		2021.3期	2022.3期	2023.3期	2024.3期			2025.3期			
		期末	期末	期末	6月末	9月末	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末
グループ 全体	小型倉庫	32	50	53	54	55	60	64	63	62	64
	配送センター	14	13	13	13	13	15	15	15	17	17
	店舗	183	185	177	175	175	174	175	177	178	179
	<b>合計</b>	<b>229</b>	<b>248</b>	<b>243</b>	<b>242</b>	<b>243</b>	<b>249</b>	<b>254</b>	<b>255</b>	<b>257</b>	<b>260</b>
首都圏 エリア	小型倉庫	30	46	49	49	50	53	55	54	53	54
	配送センター	11	10	10	10	10	11	11	11	13	13
	店舗	162	164	156	155	155	157	158	159	159	158
	<b>合計</b>	<b>203</b>	<b>220</b>	<b>215</b>	<b>214</b>	<b>215</b>	<b>221</b>	<b>224</b>	<b>224</b>	<b>225</b>	<b>225</b>
関西 エリア	小型倉庫	2	3	3	3	3	3	5	5	5	5
	配送センター	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	店舗	10	10	11	11	11	11	11	11	12	12
	<b>合計</b>	<b>13</b>	<b>14</b>	<b>15</b>	<b>15</b>	<b>15</b>	<b>15</b>	<b>17</b>	<b>17</b>	<b>18</b>	<b>18</b>
九州 エリア	小型倉庫	0	1	1	2	2	4	4	4	4	5
	配送センター	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3
	店舗	11	11	10	9	9	6	6	7	7	9
	<b>合計</b>	<b>13</b>	<b>14</b>	<b>13</b>	<b>13</b>	<b>13</b>	<b>13</b>	<b>13</b>	<b>14</b>	<b>14</b>	<b>17</b>

# 旧売上高区分による表示

(単位：百万円)

	2024年3月期 1Q-3Q	2025年3月期 1Q-3Q	前年同期比		2025年3月期 売上構成比
			増減額	増減率	
飲食店向け	67,415	72,696	+5,281	+7.8%	71.2%
宅配	16,831	15,959	▲872	▲5.2%	15.6%
店頭	12,890	12,046	▲843	▲6.5%	11.8%
卸その他	1,454	1,382	▲71	▲4.9%	1.4%
合計	98,590	102,085	+3,494	+3.5%	100.0%

- 旧・宅配区分の減収は、新セグメント「その他」に帰属するEC「他社宅配」の減少が主要因。
- 旧・卸その他区分の減収は、卸売の減少。